

2024 年卒
Vol. 4

2月1日時点の就職意識調査

キャリアス就活 2024 学生モニター調査結果 (2023年2月発行)

いよいよ来月に採用広報解禁を控えた2024年卒就職戦線。学生の最新動向を知るべく、キャリアス就活・学生モニターを対象に、2月1日時点での準備状況などを尋ねた。本選考受験経験者の割合、内定率とも前年同期調査を上回り、早期化の傾向が読み取れる。

1. 就活解禁1カ月前の不安

- 「希望する企業から内定をもらえるか」が最多 (78.1%)
- 「内定をもらえるか」(67.4%) は年々ポイントが低下し、内定獲得自体への不安は緩和

2. インターンシップ等(※)の参加状況

- 1日以内のプログラム参加者は9割超(91.4%)。秋以降も活発に参加し、平均8.7社
- 全体の平均参加社数11.0社のうち、就職したいと思った企業は3.4社

3. 2月の行動予定

- 「本選考を受ける」が最多に(63.2%)。「自己分析や選考試験対策をする」(55.9%)が次点
- 「エントリーを決めている企業がある」79.8%。1カ月で7.7ポイント増。平均8.3社

4. 就職先候補として判断するために知りたい情報

- 就職先候補の判断材料は「仕事内容」を筆頭に、「福利厚生」「勤務地」「社風」など多岐にわたる

5. 2月1日時点の本選考受験状況と内定状況(※)

- 「本選考を受けた」68.2%。前年同期を2.5ポイント上回る。受験社数は平均3.5社
- 「内定を得た」23.8%で、前年同期(20.2%)を3.6ポイント上回る

6. 志望企業の選考スケジュールの認知状況

- 7割(70.2%)が本命企業のスケジュールを認識。内定取得予想時期は「3月後半」最多に
- 企業の動き「早すぎる」と感じる学生は46.2%。前年調査(39.3%)より増加

7. Uターン就職の希望状況

- Uターン就職希望者は29.2%。「出身地・地元が好き／暮らしやすい」が理由のトップ
- Uターン就職をしたくない理由は「出身地・地元魅力的な企業がない」が最多

8. 働き方についての考え

- 「キャリアパスは自分で主導権を持ちたい」「出世よりも自分のペースで働きたい」
- 勤務地については、「新しい土地に行ってみたい」と「ゆかりのある土地で働きたい」が拮抗

※「インターンシップ(就業体験を伴う複数日程のプログラム)」に限定せず、1日以内のプログラムも含めて調査
※「内定」には、内々定を含む

調査概要

調査対象 : 2024年3月に卒業予定の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)
回答者数 : 1,170人(文系男子351人、文系女子363人、理系男子301人、理系女子155人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2023年2月1日~6日
サンプリング : キャリタス就活2024学生モニター

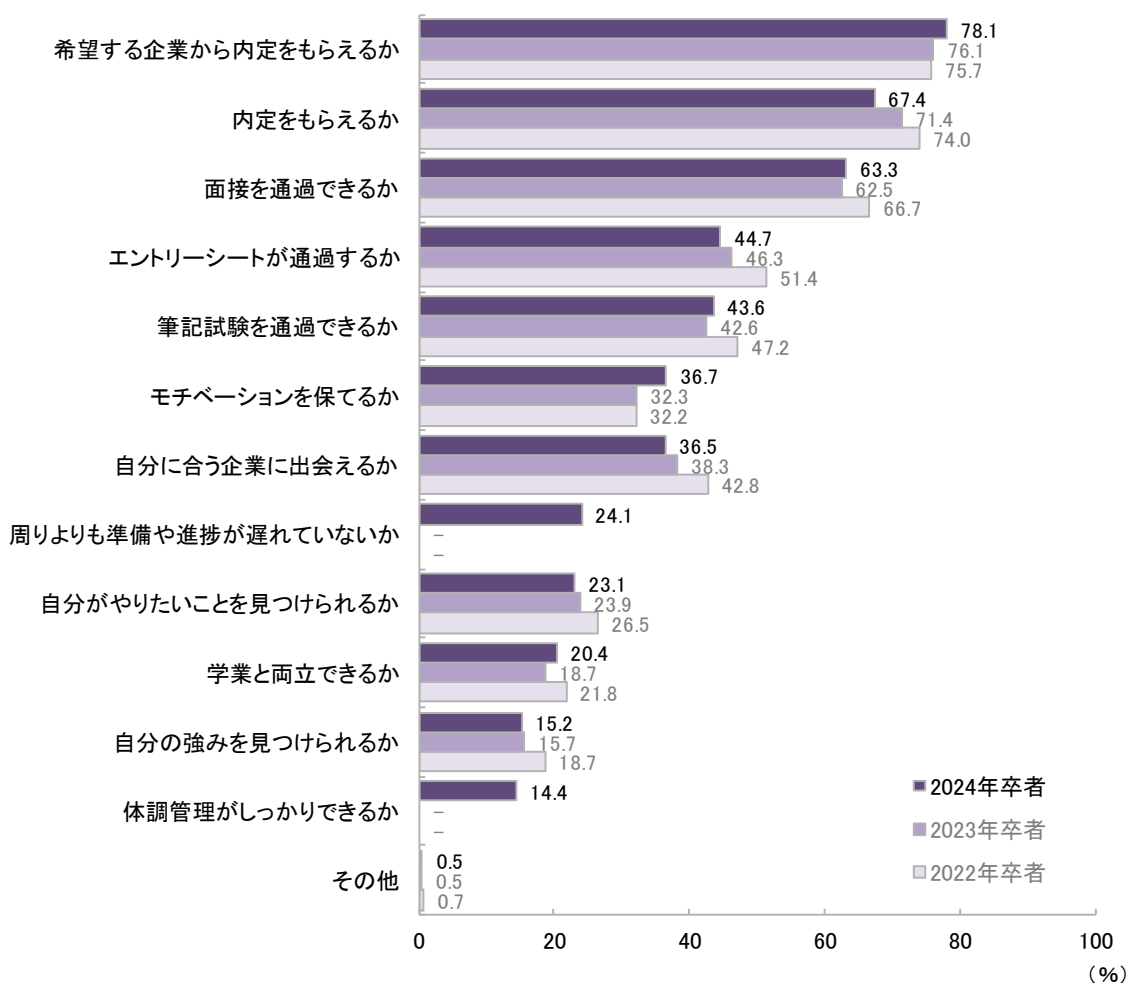
1. 就活解禁 1 カ月前の不安

3月の就職活動解禁を目前にどのような不安を感じているかを尋ね、過去2年の結果と比較した。

最も多いのは「希望する企業から内定をもらえるか」で、8割近くが選んだ(78.1%)。次いで「内定をもらえるか」が続き、今年も内定獲得への不安が上位を占めた。但し、「内定をもらえるか」は年々ポイントが低下(74.0%→71.4%→67.4%)。企業の採用意欲の高さを背景に、内定獲得自体への不安は和らぎ、希望の会社に内定が取れるかといったことに、より関心が移っている様子がわかる。

次いで選考試験への不安が続き、特に「面接」に不安を感じる学生は今年も6割を超えてる(63.3%)。「エントリーシート」「筆記試験」への不安は4割強(それぞれ44.7%、43.6%)。

<就活解禁1カ月前に感じている不安>



■就職活動への不安

- 以前は内定をもらえるかどうかについて不安があったが、今はどちらかという自分に合う企業に就職するにはどうすればよいのか、という不安の方が大きい。 <文系女子>
- 選考対策は行っていますが、当日に実力を発揮できるのか不安です。 <文系男子>
- 周りに就職活動について情報交換できる人がいないため、自分は周りと比べて進んでいるのか、遅れているのかで不安に感じている。 <理系女子>
- 自分にあった企業が見つけれず、時間だけが過ぎていき不安です。 <理系男子>
- ガクチカが本当にこれでいいのか。不安です。内定がいただけるのかも不安です。 <文系男子>

2. インターンシップ等の参加状況

2月1日時点のインターンシップ等の参加状況を、プログラム日数ごとに見てみる。「1日以内」のプログラムへの参加経験者が多く、9割を超えている (91.4%)。「2~4日間」は61.5%、「5日間以上」は28.5%だが、いずれも前年同期調査を上回り、複数日程への参加者が増加した様子がわかる。

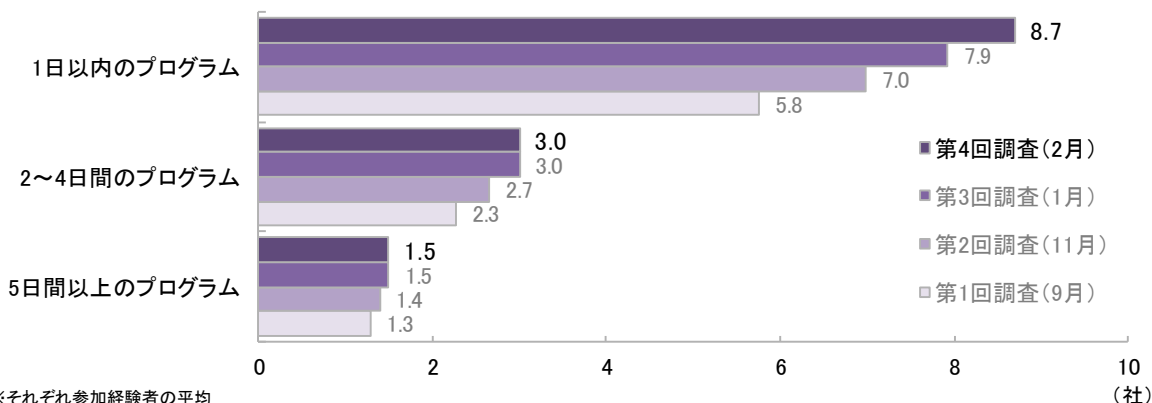
参加社数について、9月後半に実施した第1回調査からの推移を見ると、「1日以内」は平均5.8社から8.7社へと約3社増加。夏だけでなく秋以降も順調に参加経験を重ねてきたことが表れている。これに対し「2~4日間」「5日間以上」は社数の伸びが少なく、複数日程のプログラムは学期中の参加は難しく、やはり夏場が中心だったことが見て取れる。

<プログラム日数別参加状況>

	全体 (%)						
	全体	(2023年卒者)	(2022年卒者)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラムに参加	91.4	90.7	90.6	91.7	92.6	90.0	90.3
2~4日間のプログラムに参加	61.5	56.7	58.1	62.4	62.8	61.8	55.5
5日間以上のプログラムに参加	28.5	23.5	24.1	16.8	25.9	41.2	36.8

※それぞれの参加者が分母

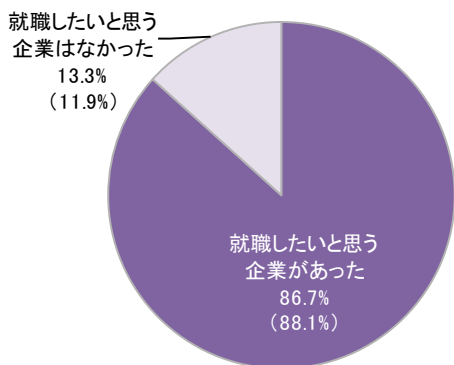
<プログラム日数別参加社数>



※それぞれ参加経験者の平均

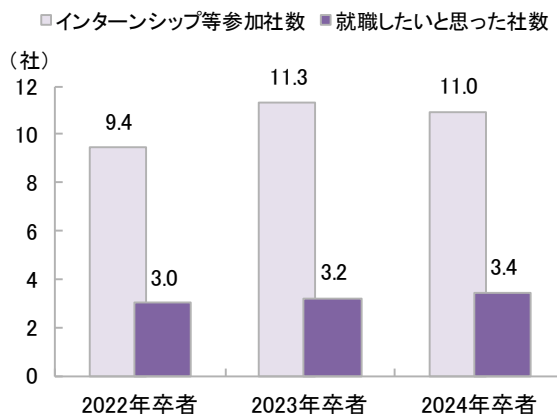
プログラム日数を問わず、参加した結果、就職したいと思う企業があったかどうか尋ねたところ、8割強が「あった」と回答 (86.7%)。平均参加社数 11.0 社のうち、就職したいと思った企業は 3.4 社で、参加企業の 3 割に相当する (30.9%)。参加社数は前年よりやや減少したものの (11.3 社→11.0 社)、就職したい企業は増加した。

<インターンシップ等の参加企業への就職意向>



※()内は前年同期調査の数値

<就職したいと思った社数>

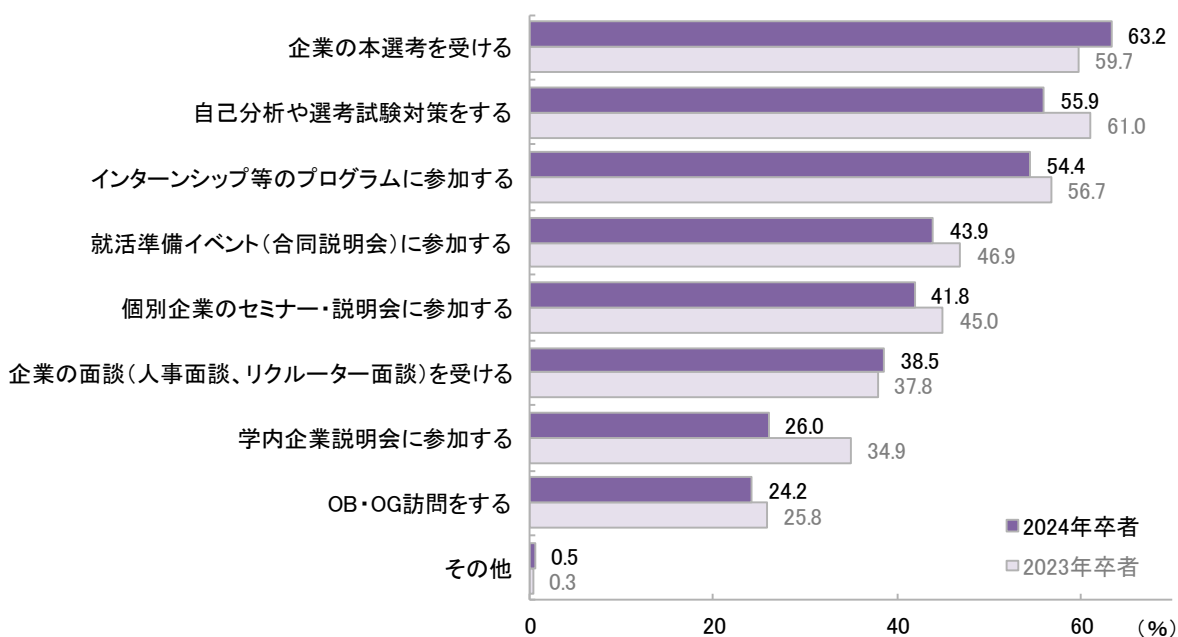


※「参加社数」は日数にかかわらず参加経験者を分母に計算

3. 2月の行動予定

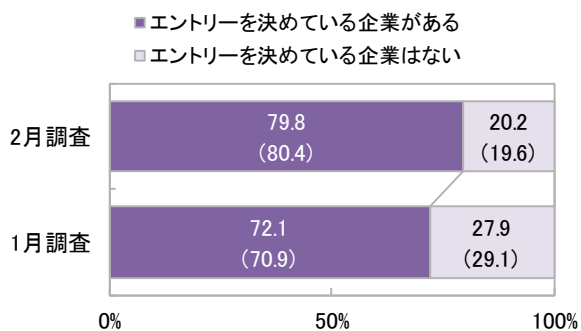
3月1日の就職活動解禁までの1カ月間をどのように過ごす予定なのかを尋ねた。最も多いのは「企業の本選考を受ける」で6割強が選んだ(63.2%)。前年最多だった「自己分析や選考試験対策をする」は、ポイントは減ったものの、今年も過半数が選んだ(55.9%)。就職活動が本格化する前に、エントリーシートや面接、筆記試験などの選考対策を進めておきたいと考える学生が多いことがわかる。僅差で「インターンシップ等のプログラムに参加する」(54.4%)が続き、3月の解禁を前に、就職先として関心の高い業界や企業への理解を深めるために参加したいと考える学生が多いようだ。一方で、「就活準備イベント(合同説明会)」に参加する(43.9%)など、視野を広げて新たな企業を探そうという学生も少なくない。

＜2月の行動予定＞



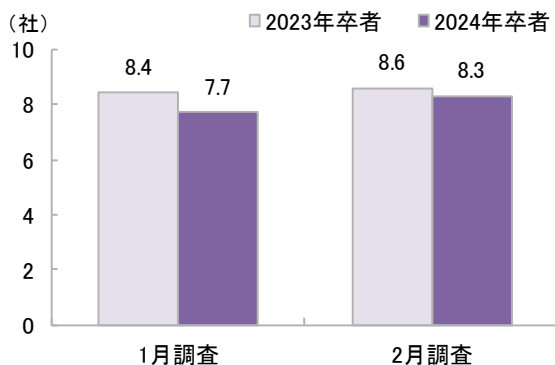
なお、調査時点で「エントリーをしようとしている企業がある」という学生は全体の約8割(79.8%)。1月調査(72.1%)からの1カ月で7.7ポイント増え、就職先として志望する企業のリストアップが着実に進んでいる様子が見える。具体的にエントリーを決めている企業の数は平均8.3社。

＜エントリーを決めている企業＞



※()内は前年同期調査の数値

＜エントリーを決めている社数＞

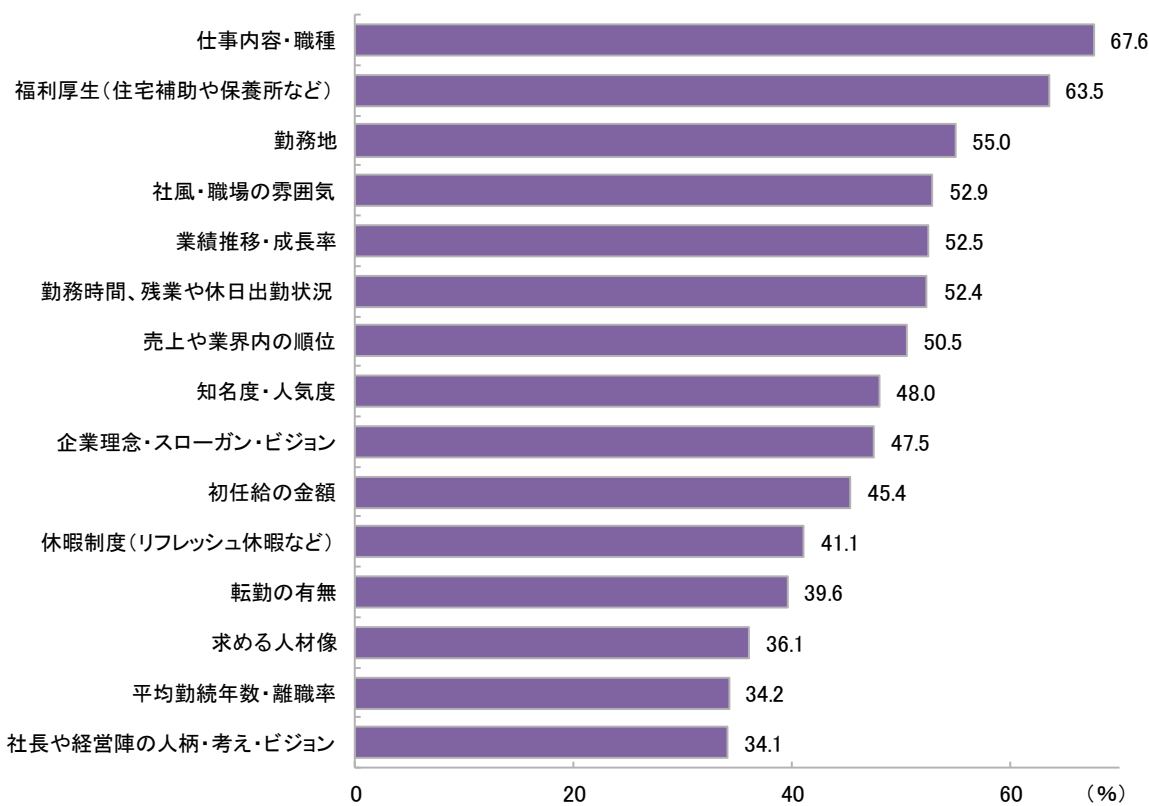


4. 就職先候補として判断するために知りたい情報

就職先の候補として興味を持てるかどうかを判断するために、企業のどんな情報を知りたいと思っているのかを尋ねた。あてはまるものをすべて選んでもらったところ、最も多かったのは「仕事内容・職種」で、7割近くが選んだ(67.6%)。次いで「福利厚生」(63.5%)、「勤務地」(55.0%)、「社風・職場の雰囲気」(52.9%)と続く。上位項目の多くが半数を超えており、学生が知りたい情報は多岐にわたっていることがわかる。企業には様々な情報発信が求められそうだ。

これを文理男女別に見ると、女子は全体的に数値が高く、多くの項目を選択。様々な角度から企業を判断しようと考えていることが読み取れる。また、文系は「企業理念・スローガン・ビジョン」が比較的高く、理系は「売上や業界内の順位」が文系に比べ高いなど、属性により特徴が見られる。

<就職先の候補として興味を持てるかを判断するために知りたい情報>



※全31項目のうち、上位15位まで

(%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
仕事内容・職種	67.6	63.5	71.9	64.8	72.3
福利厚生(住宅補助や保養所など)	63.5	57.8	69.7	62.8	63.2
勤務地	55.0	48.7	63.4	51.2	56.8
社風・職場の雰囲気	52.9	44.4	63.6	44.5	63.2
業績推移・成長率	52.5	53.8	52.1	52.2	51.0
勤務時間、残業や休日出勤状況	52.4	47.0	60.1	47.8	55.5
売上や業界内の順位	50.5	49.0	47.1	55.8	51.6
知名度・人気度	48.0	47.0	46.3	54.2	42.6
企業理念・スローガン・ビジョン	47.5	45.3	58.1	37.9	46.5
初任給の金額	45.4	39.0	52.9	41.2	50.3
休暇制度(リフレッシュ休暇など)	41.1	37.6	47.1	37.5	41.9
転勤の有無	39.6	34.5	51.0	32.9	37.4
求める人材像	36.1	32.5	42.4	30.9	39.4
平均勤続年数・離職率	34.2	33.3	41.6	27.2	32.3
社長や経営陣の人柄・考え・ビジョン	34.1	32.2	44.6	24.9	31.6

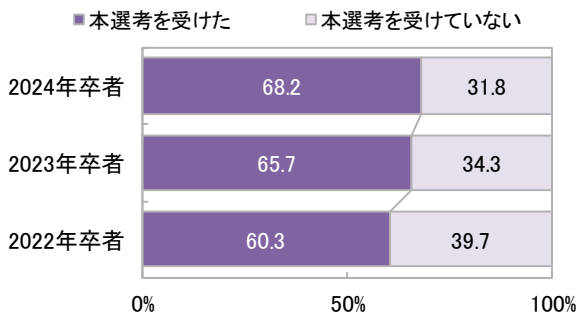
5. 2月1日時点の本選考受験状況と内定状況

2月1日時点の本選考（採用選考）の受験状況を尋ねた。ES提出や、筆記試験、面接など「本選考を受けた」という回答が68.2%で、前年同期調査（65.7%）を2.5ポイント上回った。本選考受験経験者を分母とした受験社数の平均は3.5社。また、本選考受験者の8割以上（82.1%）が、その中にインターンシップ等に参加した企業があると答えた。

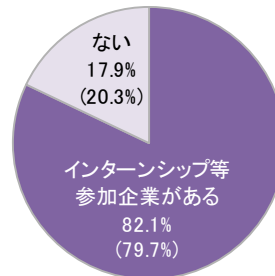
内定状況については、「内定を得た」との回答が全体の23.8%。前年調査（20.2%）を3.6ポイント上回り、先月調査に引き続き、前年よりもはやいペースで進行している。ただ、内定を得ても大半が就職活動を継続しており、調査時点で就活を終了した学生は全体の3.8%にとどまる。

属性別に見ると、本選考受験率・内定率とも女子で高く、男子よりも早期選考に積極的に参加し、内定を手にしてしている様子が見て取れる。

＜2月1日現在の本選考の受験有無＞



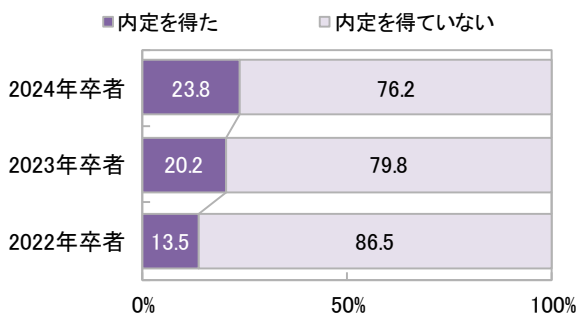
＜うち、インターンシップ等参加企業の有無＞



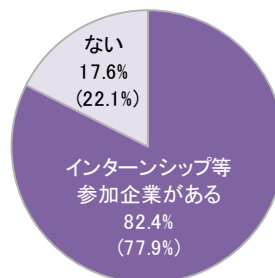
※()内は前年同期調査の数値

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
本選考を受けた	68.2%	65.7%	65.2%	70.0%	68.1%	71.0%
本選考を受けていない	31.8%	34.3%	34.8%	30.0%	31.9%	29.0%
選考受験社数(平均)	3.5社	3.5社	4.0社	3.6社	2.9社	3.2社
うち、インターンシップ等参加社数(平均)	2.0社	1.9社	2.3社	2.1社	1.8社	1.8社

＜2月1日現在の内定有無＞



＜うち、インターンシップ等参加企業の有無＞



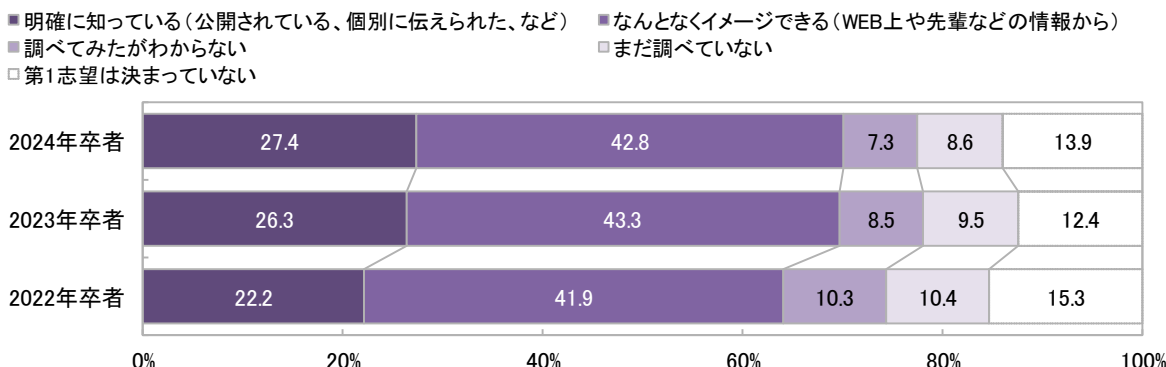
※()内は前年同期調査の数値

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得た	23.8%	20.2%	21.7%	24.0%	23.6%	29.0%
内定を得ていない	76.2%	79.8%	78.3%	76.0%	76.4%	71.0%
内定社数(平均)	1.5社	1.5社	1.5社	1.4社	1.5社	1.6社
うち、インターンシップ等参加社数(平均)	1.1社	1.1社	1.0社	1.0社	1.2社	1.3社

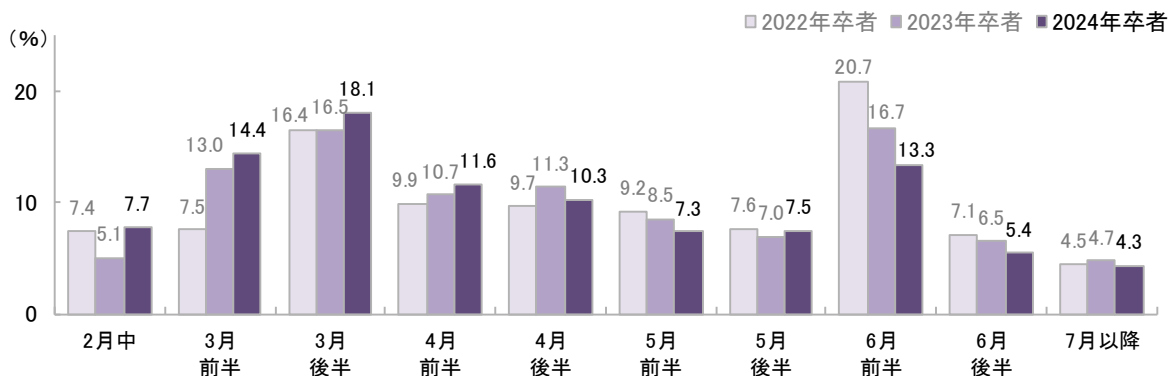
6. 志望企業の選考スケジュールの認知状況

現時点の第1志望企業について、選考スケジュールを知っているかを尋ねたところ、「明確に知っている」という学生は2割強 (27.4%)。「なんとなくイメージできる」(42.8%)を合わせると、約7割 (計70.2%)が認識していた。その企業から内定が出る場合に、いつ頃をイメージしているかを重ねて尋ねると、「3月後半」(18.1%)が最も多かった。昨年までは選考解禁直後の「6月前半」が最多だったが、2年連続で減少し、今年は「3月後半」が上回った。3月後半までを合計すると40.2%に上り、志望企業の内定を順調に得られれば、早期に就職活動を終える学生が昨年より増えることも考えられる。

<第1志望企業の選考スケジュールの認知状況>

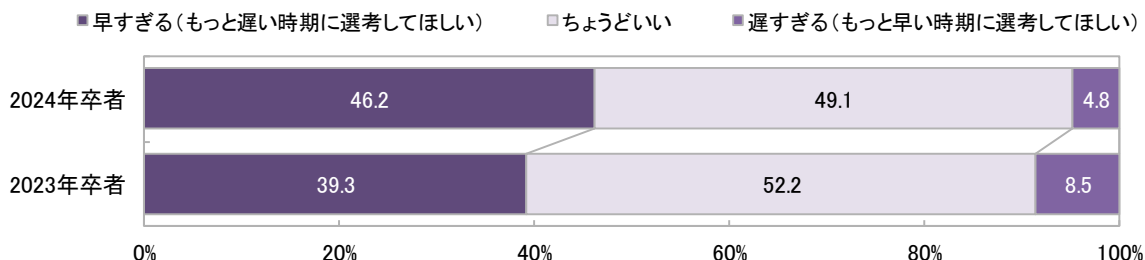


<第1志望企業の内定取得予想時期>



志望企業に限らず、今の企業の動き (選考時期) についての考えを尋ねた。「早すぎる (もっと遅い時期に選考してほしい)」という回答が前年調査 (39.3%) より増加し、半数近くに上った (46.2%)。志望企業の選考のタイミングが早く準備が追いつかないという意見のほか、学校の試験期間に早期選考が多いことで学業に支障が出ているという声も多く、企業には一層の配慮が求められる (コメントは次ページに掲載)。

<企業の採用活動の動きをどう思うか>



■企業の動きへの意見

【早すぎると思う理由】

- 早くから内定が得られる機会があるのはとてもありがたいが、対策を怠っていた自分にとっては、早いと感じてしまう。 <文系男子>
- まだインターンシップを募集している企業がある中で、気が付いたら本選考受付が終わっている企業があるから。 <理系男子>
- 説明会に参加するうちに志望する業界が変化してきているから。 <文系女子>
- 大学のテスト期間と重なるのが非常に負担が大きい。せめて2月以降からとかにしてほしい。 <文系男子>
- 早期化しすぎて研究活動に集中できないから。 <理系男子>
- 外資系やベンチャーなどは、日系大手とずれていて併願すると就活が長引くから。 <文系女子>
- 4年生になってからでいいと思う。授業を犠牲にしてインターンに参加した学生が優遇されるのを見ると複雑な気持ちになる。 <文系女子>
- 研究室に配属される前に就活を行わなければいけないことに違和感があります。 <理系女子>

【ちょうどよいと思う理由】

- 夏秋のインターンで興味もった企業にエントリーする時期としては、ちょうどいいのではないかと感じた。 <文系女子>
- 早めに受けることができる会社があることで、忙しさが分散される。 <理系女子>
- 早期選考を行う企業が多く、本選考の前に選考の練習となる経験を積むことができるから。 <文系女子>
- 早期化している企業とそうでない企業があり、自分はそうでない方を志望しているから。 <文系男子>
- 1月にテストが終わるので、3月からだと余裕を持って取り掛かることができるから。 <理系男子>
- 早くに就活を終えることで、研究活動に集中できるから。 <理系男子>
- 今より早すぎると準備が間に合わなそうであり、遅いと卒業ギリギリに決まるようになってしまいそうだから。 <文系女子>

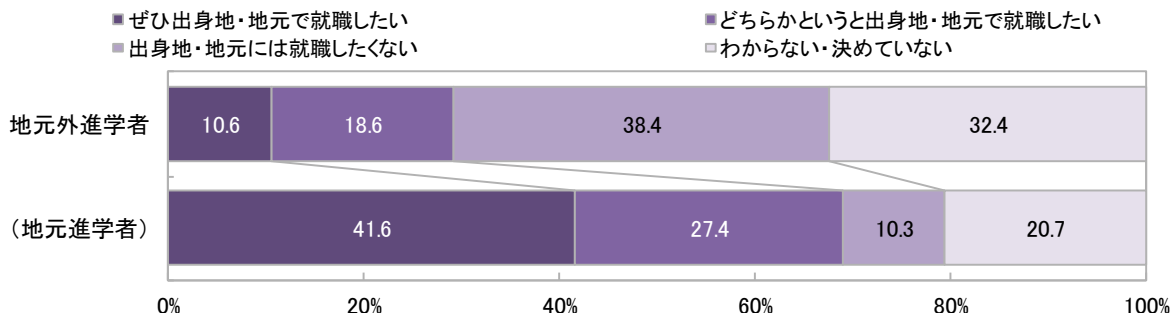
【遅すぎると思う理由】

- 4年生になると卒業研究があり、就活との両立が厳しくなると思うため。 <理系男子>
- 地元企業の採用活動は遅いと思う。もっと早く選考を行えば、内定をもらったあとの学業や資格取得により力を入れられると思う。 <文系女子>

7. Uターン就職の希望状況

出身地・地元を離れて進学している学生 (=地元外進学者、モニター全体の39.6%) に、Uターン就職を希望しているか否かを尋ねた。「ぜひ出身地・地元で就職したい」(10.6%)と「どちらかという出身地・地元で就職したい」(18.6%)を合わせたUターン就職希望者は29.2%。出身地・地元に戻りたくない学生(38.4%)を大きく下回った。比較のために地元の大学に進学した学生にも尋ねたが、約7割(計69.0%)が地元就職を希望しているのと対照的だ。

<地元就職希望状況>



出身地別に見ると、Uターン希望者が多いのは、「北海道出身」(計 37.5%)、「関西出身」(計 34.6%)、「関東出身」(計 31.4%) で、いずれも 3 割超。

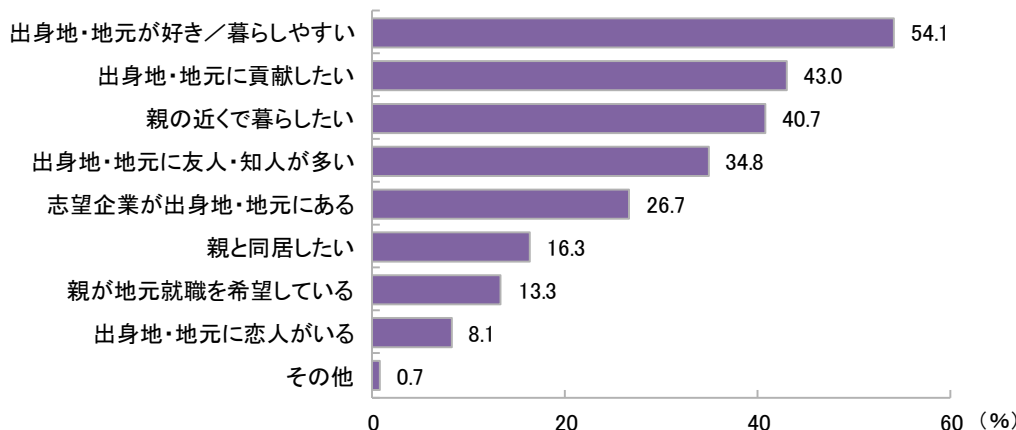
＜地元外進学者のUターン就職希望状況（出身地別）＞

	全体	北海道出身	東北出身	関東出身	中部出身	関西出身	中国・四国出身	九州・沖縄出身
ぜひ出身地・地元で就職したい	10.6	12.5	8.7	14.5	8.5	9.3	13.0	5.1
どちらかというと出身地・地元で就職したい	18.6	25.0	8.7	16.9	18.8	25.3	15.2	23.1
出身地・地元には就職したくない	38.4	37.5	47.8	33.9	38.5	28.0	50.0	48.7
わからない・決めていない	32.4	25.0	34.8	34.7	34.2	37.3	21.7	23.1

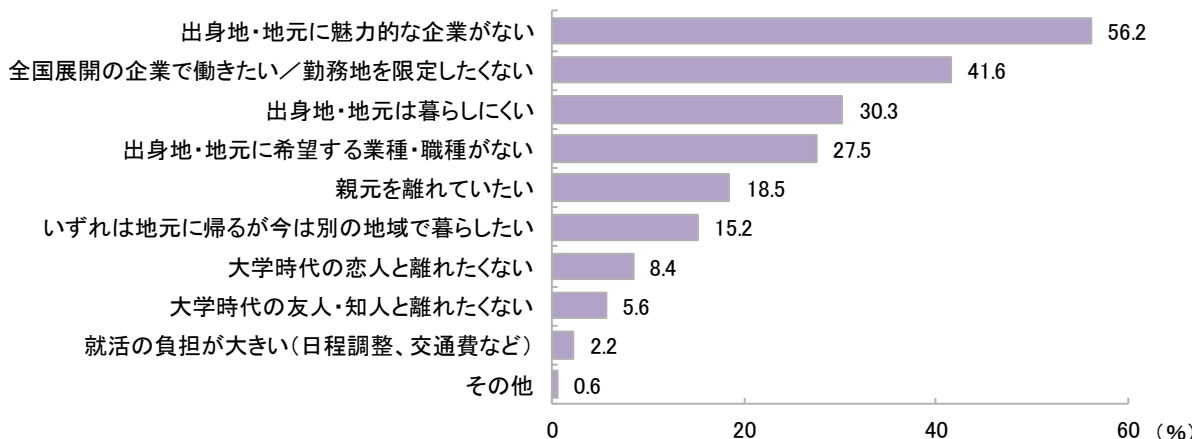
Uターン就職をしたい理由で最も多いのは、「出身地・地元が好き／暮らしやすい」で 5 割強 (54.1%)。次いで「出身地・地元へ貢献したい」(43.0%)、「親の近くで暮らしたい」(40.7%) と続く。地元への愛着や実家に近い場所での生活を希望することから Uターン就職をしたいと考える学生が多いようだ。

一方、Uターン就職をしたくない学生に理由を尋ねると、「出身地・地元へ魅力的な企業がない」が 56.2% と最も多かった。地元に戻りたい気持ちがある場合でも、地元へ就職したいと思える企業がないため、Uターン就職に二の足を踏んでしまう学生も一定数いると見られる。次いで「全国展開の企業で働きたい／勤務地を限定したくない」(41.6%) が続き、大手志向も垣間見える。

＜Uターン就職をしたい理由＞



＜Uターン就職をしたくない理由＞



8. 働き方についての考え

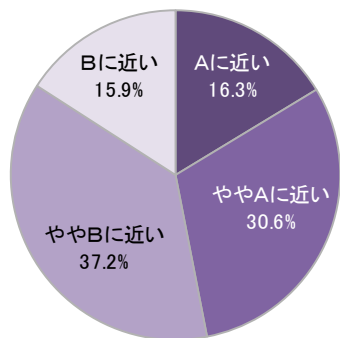
働き方に関する4つの指標について対照的な項目示し、現時点での希望に近い方を選んでもらった。

まず、「1つの分野で専門性を高めたい」と考える学生は合わせて46.9%。「幅広い業務を経験したい」という学生の方がやや多い(計53.1%)。文理男女別で大きな差は見られない。一方で、「キャリアパスは自分で主導権をもちたい」が合計で7割超に上り(計74.1%)、「会社に任せたい」(計25.9%)を大きく上回る。自律的にキャリアを形成していきたいと考える学生が多いことがわかる。

出世意欲については「仕事が多少忙しくても早く出世したい」が4割強(計42.8%)。「出世するより自分のペースで仕事がしたい」(計57.2%)が15ポイント近く上回っており、ワークライフバランスを意識する学生の方が多いようだ。勤務地については、「新しい土地に行ってみたい」(計49.2%)と「ゆかりのある土地で働きたい」(計50.8%)が拮抗。

<働き方についての考え>

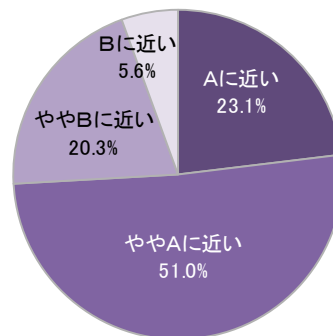
A: 1つの分野で専門性を高めたい
B: 幅広い業務を経験したい(ジョブローテーション)



(%)

	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	17.1	16.3	14.6	18.1
ややAに近い	29.6	28.4	31.9	35.5
ややBに近い	37.3	38.0	37.2	34.8
Bに近い	16.0	17.4	16.3	11.6

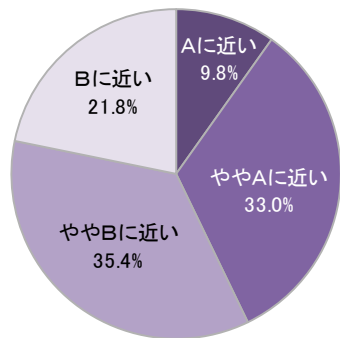
A: キャリアパスは自分で主導権をもちたい
B: 会社に任せたい



(%)

	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	24.5	23.4	23.6	18.1
ややAに近い	50.1	53.4	50.2	49.0
ややBに近い	19.1	18.2	21.6	25.8
Bに近い	6.3	5.0	4.7	7.1

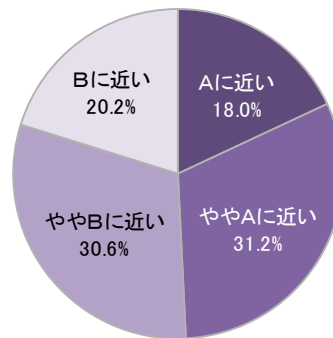
A: 仕事が多少忙しくても早く出世したい
B: 出世するより自分のペースで仕事がしたい



(%)

	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	14.5	5.8	11.3	5.8
ややAに近い	37.3	24.0	40.9	29.0
ややBに近い	33.0	39.9	31.2	38.1
Bに近い	15.1	30.3	16.6	27.1

A: 新しい(知らない)土地に行ってみたい
B: ゆかりのある土地で働きたい



(%)

	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
Aに近い	18.5	19.0	15.9	18.7
ややAに近い	33.9	25.1	34.9	32.3
ややBに近い	30.8	29.8	32.2	29.0
Bに近い	16.8	26.2	16.9	20.0